

今まさに地域医療が崩壊の危機に直面し、医師や看護師不足による地域偏在の問題、病院経営の圧迫等さまざまな課題をどう捉え解決していくか、行政、医療機関、医師会、大学等が今後さらに一体となって取り組んでいかなければなりません。

医育大学の地域枠、定員増により、将来の見通しとして地域医療を志す医師が一人でも多く存在することを期待するところですが、そのためにも臨床研修制度によるプライマリケアや総合医の重要性を高

く位置づけていただきたい。

また、これからの高齢社会に対応した慢性期、療養期医療はとて重要であります。このことを担う中小病院にとって診療報酬上ほとんど評価されていない状況にあります。

今後の診療報酬改定のなかで、ぜひ療養期医療、プライマリケアに対する評価を検討願います。

住民にとって、どこに住んでも安心した医療が受けられることを願いながら……



地域医療を支える 環境づくりを 目指す活動を

羽幌町
地域医療を守る会「折り鶴」 会長
有澤 護

「今日で〇〇先生いなくなるね」「次の先生は長くてくれるかな」「〇〇科があるといいね」…と待合室での患者同士の会話。

羽幌町は留萌管内中心部に位置し、天売島、焼尻島を有する人口7,900人弱、65歳以上人口は2,800人を超え、高齢化率は35.5%の町です。現在、町の医療機関は1つの個人病院と留萌中北部地域の2次医療を担う道立羽幌病院があり、島にはそれぞれ道立診療所があります。

道立羽幌病院は、平成17年に改築され、当時診療科は11科、常勤の固定医11人、札・旭医大等から派遣医師の応援を得て地域センター病院として住民の治療と健康を守っておりました。新たな臨床制度の始まりと都会志向による医師の偏在から当病院の常勤医師も1人、2人と不在になり、「〇〇科、〇〇科休診」が続ぎ、現在では内科、外科を5人の常勤の医師が、それ以外の診療科は大学病院、近隣病院の医師の応援を得て、中北部のセンター病院としての役割に貢献をいただいております。

この地域も高齢者の割合が高くなる一方で、病気を抱えている、病気にかかり易い環境にあります。特に、離島には500人以上が生活しており、冬季間は唯一の交通機関であるフェリーの欠航が多く不安を抱きながらの日常であり、安心した生活を送るためにも医師の在住を欠くことはできません。

「先生に長くいてもらうにはどうしたらいいのか」「診療しやすい環境は」「地域医療を守るには」…と地域医療が抱える問題を住民全体の問題として考え、取り組みを始めました。医師、スタッフの皆さんが地域に愛着を持って診療に専念ができ、交流を通して理解を深めることを目標に、平成23年3月、町の商工会が中心となり、産業団体、福祉団体、婦

人団体、青年団体などが連携して「地域の医療を守る・折り鶴の会」を設立いたしました。

折り鶴の会は、

- ①医師、病院スタッフとの交流
 - ②医師、スタッフが診療しやすい環境づくりへの支援
 - ③会報の発行
- などを活動の中心としております。

会はまだ2年足らずの活動ですが、これまで医師、スタッフの歓迎会、夏の交流会、医療関係者との座談会、会報の発行、病院内に感謝の掲示板設置などを通じて地域の理解を深める活動を行っております。また町も医師の固定化、看護師不足の解消に向けた支援制度や住環境の充実、ドクターヘリポート設置など医療環境の充実に取り組んでおります。

「熊熊通信」に掲載されております医療現場の問題や医師の生活環境、地域医療への想いなど、医師の立場からの報告として医療を取り巻く問題などを知ることができ、私たちが進める活動に対する道標ともなっております。地方病院の勤務は「幅広い病例の経験」「住民、患者からの信頼感の充実」など貴重な経験が得られますが、反面、「業務の多忙」「交代医師の不足」「他病院とのネットワーク・連携の充実」など医師、スタッフの勤務環境の課題もあり改善も必要です。

地域の病院、診療所に勤務する医師は、一人ですさまざまな対応をしなければならず、幅広い知識と専門性が求められとても多忙です。医学が進歩する時代、病院内での研修、研究を重ねていくにはゆとりがない環境と思われれます。医師が医療技術、日々の進歩に研さんを重ねるためには一定期間に都市の病院や大学病院等での研修を義務化し、その間の交代医師を配置できる仕組みを構築すべきです。また、臨床研修を終えた医師は、数年間の地方勤務の義務化を制度的に確立をすることも必要なものではないかと考えます。

折り鶴の会では、これからも地域の医療を守り、地域においても安心しての医療が受けられ、医師・スタッフの皆さんが地域住民の健康と医療活動に専念していただくことができる環境づくりを目指しながら、これからも活動を拡大、充実をしていくこととしております。